

市政トピックス

浸水被害を軽減—原町東部雨水幹線の供用を開始しました

大雨による浸水被害の危険性が高い宮城野区扇町地区、若林区大和町・卸町地区を対象に、平成24年度から整備を進めてきた雨水専用下水道「原町東部雨水幹線」が完成し、4月から供用を開始しました。

同地区は、東日本大震災により地盤沈下し、大雨時には既設の水路の排水能力を超えた多量の雨水が地表にあふれ、床上浸水や道路冠水等の被害が多発していました。そこで、浸水被害を軽減するため、10年に1度とされる1時間に52ミリの激しい雨に対応できるように、

◀全長約6.5キロメートル、直径最大2.8メートルの雨水幹線



▶鶴巻ポンプ場の雨水ポンプ。地盤の低い地区では、ポンプにより水をくみ上げて川へ排水します

地下約30メートルの深さに雨水幹線を整備。雨水幹線を通り集められた雨水をくみ上げて七北田川に排水するためのポンプを、鶴巻ポンプ場に3台増設しました。これにより1時間で約10万トン、25メートルプール224杯分に相当する雨水の排出が可能になりました。今後は、仙台駅西口地区等の浸水リスクの高い地域の雨水排水施設の整備を進めるなど、雨に強いまちづくりを目指して取り組んでいきます。

市政トピックス

新型コロナウイルス対策に係る増額補正予算案等が可決

国の補正予算を踏まえ、新型コロナウイルス感染症への対策等を迅速に実施するため、5月1日・2日に市議会第1回臨時会が開かれました。1人当たり10万円を支給する特別定額給付金に約107.5億円、緊急事態宣言に基づく県の休業要請に応じた事業者への協力金等に69億円など、過去最大の補正額となる約138.4億円を増額する一般会計補正予算案等が可決されました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止と市民生活の安定や地域経済の回復に向けた取り組みを、全庁を挙げて集中的に進めます。

市政トピックス

3.11 震災文庫を
読む

31

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本を、紹介いたします。

重層化する震災復興と感染症の克服
東北学院大学経済学部准教授 齊藤 康則

「災害看護の本質—語り継ぐ黒田裕子の実践と思想」



多和田葉子 / 著
講談社 刊



柳田邦男・酒井明子 / 編著
日本看護協会出版会 刊

全米図書賞に輝いた多和田葉子「献灯使」の舞台は、大震災により鎖国され、移動さえ抑制された近未来の日本。東京西域の仮設住宅に暮らす小学生・無名と曾祖父・義郎は、それぞれ虚弱な子ども、不死の高齢者という、不思議な身体的特徴をもつ登場人物です。所々に言葉遊びを散りばめた物語は、成長した無名が海外に「献灯使」として送り出されることが決まった後、謎めいたエンディングを迎えます。

東日本大震災から9年、わたしたちの社会が別様の災厄に見舞われる中、「献灯使」の場面設定は小説を超えたりアリティをもつて迫って来るようです。まさに国境線が閉じられ、対

面状況が控えられた今、あらためて注目したいのが「災害看護の本質」です。サブタイトルにある黒田裕子さんは、阪神・淡路大震災の孤独死をきっかけとして看護職を辞し、被災者に寄り添い見守り活動を展開した人物です。東日本大震災では気仙沼市に赴き、避難所、仮設住宅で被災者支援に従事しています。災害看護のパイオニアである黒田さんは、「たった一人、最後の一人」の社会的弱者が「生ききる」意味を大切にしました。感染症が再来したこの時代、ハイルスクな高齢・患者者、医療体制が脆弱な開発途上国とどのような連帯関係を築くことができるのか—そのことがわたしたちに問われています。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585